＜　学校教育目標　＞
自ら学び
心豊かで
たくましい 稲田っ子

いなだっ子

笠間市立稲田小学校
学校だより NO.29
令和7年2月 11 日（火）

「黙働と黙食」

私が子供のころは「黙働」や「黙食」という言葉は使われていなかったように思います。いつ頃から使われるようになったのかわかりませんが、現代の小・中学校ではよく使う言葉です。「黙働」これは読んで字の如く「だまってはたらく」ことです。「黙食」おなじく「だまってたべること」です。１年生でも漢字は書けなくても言葉の意味は理解しています。

稲田小学校では「黙働」は毎日の清掃時の取組としています。本校には「い・な・だ」の合言葉があり、「いつも明るいあいさつで・なにごとにも全力で・だれにもやさしい稲田っ子」を表す言葉です。この中にある「なにごとにも全力で」については、この理想の姿に近づけるために、掃除の時間は黙々と清掃に取り組む習慣をつけることで、毎日の学校生活の中にメリハリをもたせたいと考えています。「黙って掃除をしている」状態は「今、やるべきことに全力を注いでいる」状態であり、この取組が、「遊ぶときには夢中で遊ぶ」だけでなく、ひいては「授業中は学習に集中」して取り組むような、「なにごとにも全力で取り組む子」の育成につなげられればと考えています。

もう少し話を加えると、私たちの生活の中には三つの「間」があり、この「間」は絶え間なく変わります。授業時間・休み時間・掃除の時間と「時の『間』」が変わり、教室・運動場・掃除の分担場所と「空『間』」が変わり、そして、学級の仲間・遊び仲間・掃除当番と「仲『間』」がその都度変わります。これらの時間・空間・仲間の「三つの間」が変わる毎に、「やる気スイッチ」をパッと切り替えることのできる子を育てたいと考えます。メリハリのある生活ができるかどうかで、身につくものが大きく変わっていきます。

今年度は、教頭先生の放送の合図で黙働清掃に取り組んでまいりました。少しずつ浸透し、毎日の学校生活に変化が生まれました。今後も児童の意識と行動の変容につなげていきたいと考えています。そしていずれは黙働を、本校の学校文化の柱の一つにしていきたいと考えています。

一方、「黙食」はコロナ禍で、感染防止の観点から飛沫を飛ばさないようにするための措置です。コロナ前はグループで楽しく会話しながら給食を食べるのが普通でした。本来、「食事は楽しく食べたい」という思いは誰も持っている思いだと思います。同じものを食べても、黙って黙々と食べるよりは、仲間とおいしさを共有しながら、楽しい話をして食べたほうがおいしく感じるものだと思います。

しかし、コロナ対策で食事に対する考えが変わったのも事実です。テレビで流れてくる飛沫のシミュレーション映像を見ると、「対面で食事をするのが不安」という子供たちもおります。もちろん大人もです。であれば、楽しくおしゃべりしながら食べる給食より、「黙って食べる給食がいい」と思ってしまいます。

令和５年５月から新型コロナウィルス感染症の位置づけが「２類相当」から「５類感染症」となりました。「２類相当」の時は、行政が様々な要請をし、色々な制限がありましたが、「５類感染症」になり、私たちの自主的な取り組みをベースにする対応に変わりました。学校でもここまで、「グループ給食に戻すかどうか」の議論をしてきましたが、「感染が不安」と思う子供たちに配慮し、今年度は見送ってきました。しかし、昨今の状況から、４月からは改めてマナー指導をした上で、グループ給食に戻す予定でおります。

最後になりますが、黙働時は「黙り続ける」ことを意識させるので、この時間帯にお客様等に会った際は会釈のみとなります。また、グループ給食に抵抗感のある児童は、無理強いはせずに少しずつ理解を深めていきたいと思います。ご理解、ご協力をお願いいたします。

稲田小学校長　　髙野　裕一